

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

道府県・政令市名【長野県】

学校名【青木村立青木小学校】

1 実践テーマ	I・II・III・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	4学年 男子17名 女子20名 計37名 5学年 男子20名 女子11名 計31名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 (地域参観日) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	児童がオリンピック・パラリンピックの意義を学び、それらをめざす選手、それらを支える選手の考え方や生き方を知ることを通して、学校や社会で相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合って生活をしていく態度を育てる。
5 取組内容	<p>①オリンピック・パラリンピックについて 4・5学年合同で、オリンピック・パラリンピックについて知っていることや知りたいことについて話し合い、まとめた。</p> <p>②子どもたちの話し合いから生まれた疑問について考えたり、知ったりする オリンピック・パラリンピックの歴史や意義・競技内容などについて、動画やインターネット、学習プリント、話し合いなどを通して学んだ。</p> <p>③競技「ボッチャ」について ボッチャに取り組んでいる選手の思いや願いに気づき、ボッチャの競技の特性やルールについて知った。</p> <p>④パラリンピックの競技を体験する「ボッチャ」 学年ごとにボッチャを体験した。</p> <p>⑤パラ選手を学校におよびする準備をする パラをめざす選手、それを支える選手を迎えるにあたっての、現在の自分の気持ちや質問したいことをまとめた。</p> <p>⑥ゲストティーチャーによる「ガイドランナーの体験型授業」の実施 ・土田政志 (アテネパラリンピックガイドランナー) ・村竹陽太 (水泳アジアユースパラ代表 パラ陸上短距離選手) ガイドランナーとして活動をしている土田選手と水泳競技から陸上 100m競技に転向をして活動をしている村竹選手に</p>



話し合いをしている所



ボッチャをしている所

	<p>よる、ガイドランナー体験型授業を行い、それぞれの選手の気持ちを考えた。</p> <p>⑦体験型授業で学んだことを振り返る 地域参観日において、オリンピック・パラリンピックの学習を通しての自分の気持ちの変化についての話し合い学習を行った。</p> <p>⑧「学習を通して学んだこと、気持ちの変化や深化」をまとめる オリンピック・パラリンピックの学習を通して学んできたことを、新聞にまとめることで、自分の生き方を振り返り、今後の学校生活や社会生活に生かせることを考えた。 「今後の活動」</p> <p>⑨姉妹学級と交流活動（スポーツを楽しむ）を計画・実践する</p> <p>⑩児童会活動で一人ひとりを理解し合って交流活動をする</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>○障がい者への理解が深まったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体が不自由な人は「かわいそうだな」と思っていたけれど、お話を聞いて、それは「自分勝手な考え」だったことに気がついた。体が不自由だからできることとできないことがあると思った。村竹さんは体が不自由なことを生かしていた。目が見えなくなった時はとても不安だったと思う。しかし、今は毎日楽しく過ごしていることが分かった。会えて良かった。 ・楽しそうだった。質問している時に笑顔で受け答えしてくれてユニークな人だった。そして、今後、医学が進歩して全盲が治るとしても、このままでもいいと言っていた。ちゃんと障がいと向き合っているということが分かった。 ・村竹さんはもっと落ち込んでいたり、元気がなかったりするのではないかと思っていたけど、すごく楽しそうで驚いた。障がいがあっても前向きに生きていてすごいと思った。 <p>○ガイドランナーやランナーの気持ちを考えることができた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドランナーやランナーになって走った時は、ランナーの方がやりやすかった。ランナーをした時、最初はちょっとこわかった。でも、ガイドランナーがしっかり走ってくれると思ったから、自信がもてた。 <p>○スポーツへの理解が深まった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャをやって、とても楽しかった。障がいのある人ともない人とも、異学年の友だちとも、誰とでも安全で楽しくできるスポーツなので、すごく良いと思った。
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>青木村は「心豊かでたくましい子どもの育成＝社会力（生きる力）を育てる＝」子どもと向き合う時間を確保し、人とつながる力と学力・体力を育て、一人一人を大切にす教育を教育目標としている。今回の実践においても、子どもたちが体験を通して学べること、学校や社会で相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合って生活をしていく態度を育てられる学習となることを心がけた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>障がい者理解について、パラリンピック選手のみならず、身近な障がい者への理解を深められるようにしていきたい。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>4学年での総合的な学習の時間「共生社会」の学習として位置づける。外部講師を招いての体験を通しての学習も、今後も継続的に行う。</p>



ランナー体験している所